

主の公現

2016.1.4

マタイ 2・1-12

主の公現の祭日の今日の福音の東方の博士たちを導いた星の光が、多くの困難の中でこの新しい年を歩み始めた全ての人の心に届くことを祈りたいと思います。行く手の分からないこの年の初めの旅立ちに当たって、わたしたちは希望の光を必要としています。その光は博士たちの行く手から博士たちを導くために輝き出たのです。わたしたちもそのようなわたしたちを導く希望の光を必要としています。そして、今日の福音はそのような光があることをわたしたちに告げているのです。これが、この新しい年を歩み始めようとしているわたしたちへの神の応えです。迎えたこの年がわたしたちにとって、どのような年となろうとも、神はこの希望の星の光をもって、わたしたちの行く手を導こうとされているのです。そしてその星の光は、どのような苦境の中にあっても、明日を信じて立ち上がろうとしている全ての人の心の中に輝いているのです。

わたしたちがこの新年にあったってささげた祈りは、自分一個の願いごとを越えて、全ての人の幸せを願う広がりを持った祈りであったはずです。そのような祈りの広がりの中で、わたしたちは、神がわたしたちの祈りに応えてくださっていることを知ることが出来ます。どのような災害に見舞われようとも、どのような不幸のどん底に突き落とされようとも、わたしたちの中にはそこから這い上がって新たに歩み始めることが出来る可能性が与えられているのです。わたしたちにもそのような可能性が与えられていることを、あの災害の中から立ち上がろうとしている人々の姿を通して知ることが出来たのです。その人々の姿は、わたしたちにとって、今日の福音の博士たちの姿のように映らないでしょうか。その人々を立ち上がらせようとしているものこそ、あの博士たちを導いた星の光のように思えないでしょうか。わたしたちは全てを失ったとしても、わたしたちを立ち上がらせるに足る希望が失われない限り、新たに歩み始めることが出来ることをあのつらい経験を通して学ぶことが出来たはずです。

この一年の歩みを始める今日の主の公現の祭日にあたって、あらためて全ての人の上に、希望という星の導きを願ってこのミサをささげたいと思います。特に今年成人式を迎える若い人々の上に、彼らの行く手を包んでいる暗闇を越えて力強く彼らの人生を歩み通す、神のみが与えることの出来る希望の光を祈りたいと思います。彼らがわたしたちの時代に希望をもたらす、東方の博士たちようになってくれることを祈りたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高